

高松市の施設指定管理者導入施設に対する評価

評価対象期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日

施設名	鬼ヶ島おにの館		
指定管理者	特定非営利活動法人 瀬戸内・女木アイランド振興会	施設所管課等	観光交流課
指定期間	平成29年4月1日～平成34年3月31日	公募・非公募の別	公募
所在地	高松市女木町15-22	業務の概要	・施設および設備の維持管理に関する業務 （保守管理、環境維持管理、防災・安全確保） ・施設利用の促進に関する業務 （施設利用者の誘致、施設利用の拡大、広報・PRおよび利用者サービスの向上）
施設の概要	【施設】 鉄骨造 平屋建 【職員の状況】 館長職1人、非常勤職員4人 【開館時間】 年中無休 開館8:00 閉館17:20（但し8月1日～8月20日は18:10まで）		

	項目名	平成28年度	平成27年度	項目名	平成28年度	平成27年度
利用状況等		109,661 人	80,219 人			
収支状況等	指定管理料	11,081 千円	10,074 千円		千円	千円
	支出実績	11,153 千円	10,074 千円		千円	千円
		千円	千円		千円	千円

評価基準	評価項目	指定管理者自己評価コメント	所管課等評価
2 住民の平等な利用確保	①管理運営、施設事業との関連性 ②平等な利用の確保	観光客や地域の住民が、気軽に常時安心・安全に利用できる施設を目指し、知名度の向上と清潔感あふれる公平・平等な施設利用に取り組んだ。利用者からは好評評価を得ている。	A
3 施設の効用の最大限の発揮	①利用促進対策 ②広報・PR対策 ③企画事業・自主事業 ④市・関係団体・地域等との連携 ⑤サービス向上の取組 ⑥相談・苦情への対応	2016年は瀬戸内国際芸術祭が開催され、年間利用者は、109,661人で前年度より29,442人増加し、外国人は6,288人で前年の1,300人を大きく上回った。女木島は関西、関東方面からの観光客が大半で鬼ヶ島大洞窟等、癒しスポットとして人気がある。多くの人々が心が満たされ笑顔で帰られる。利用促進、広報PR策として女木島おにの館ホームページの情報発信の効果のほか、島の案内地図も好評。旅行案内誌、マスコミ等への情報提供等を行い、島の観光案内に努めた。自主事業については、食堂運営、レンタサイクル事業を実施した。また、地域等連携については鬼ヶ島観光協会・女木コミュニティセンター・漁協等と協働し、ウォーキングや鬼の力汁等のイベントを共催し賑わいを創出したほか年間を通した土、日限定の瀬戸芸作品の周知に協力するとともに、来島者に観光スポット必見案内を推奨している。このほか、鬼の間の映像や全国のおにの資料への案内や紹介に努めた。相談苦情の対応については、日頃より丁寧な一期一会の想いでおもてなしの心をもって対応しており、おにの館に対する苦情やアンケートによるクレームはなかった。	A
4 管理を安定して行うための人員及び財政基盤の確保	①職員確保計画等 ②教育・研修 ③就業規則等の遵守 ④施設運営の健全性の確保 ⑤損害保険等 ⑥収支計画と執行管理	職員については最小に絞り込み、可能な限り地元雇用を努め、効果的配置に努めている。また、職員研修については、接遇研修を中心に職場研修を実施した。就業規則については、労働基準法の遵守の他、高松市鬼ヶ島おにの館条例施行規則に基づき、定時の開館、閉館を行った。施設運営の健全性の確保については利用者に対し差別なく公平公正に接し、毎日の整理整頓、トイレ、床、窓等の清掃を行い、その清潔感に利用者が感嘆している。損害保険等については、傷害保険及び総合賠償責任保険に加入している。収支計画と収入管理については帳簿通帳等により日々適切に管理している。	A
5 管理に係る経費の縮減	①収入の確保・適正な人件費 ②運営経費の節減対策・コミュニティビジネスの視点 ③経営の効率化 ④合理的な会計制度	本来、島内雇用が経費節減できる最善策であるが、適正な人員が確保できないことから、総合的な対応ができる管理職を島外から雇用確保している。施設維持管理職員については原則1日1人を配置し、交代勤務で運営し経費節減に努めている。収入の確保・適正な人件費については、指定管理委託費についてはその執行に日頃より、最大の注意を払い最小の経費で最大の効果が出るよう指定管理申請に基づいた収支計画の執行に努めている。運営経費の節減対策については、省エネの徹底、電気使用量の減、ゴミは島外への持ち帰りを徹底し、ゴミ減量化に努めた。合理的な会計制度についてはソリマチのNPO法人向け会計ソフトを導入し運用している。	A

総合評価コメント	総合評価
条例等関連法令を遵守し、適正な管理がなされている。指定管理者は、観光客や地域の住民が気軽に常時、安心・安全に利用できる施設を目指し、利用者が快適に過ごせるような空間づくりに努めており、瀬戸内国際芸術祭の効果もあり、利用者数が大幅に増加したことは高く評価できる。 また、限られた予算・人員の中で創意工夫をこらし、来島者満足度の向上に努めている点についても評価できる。 鬼に関する資料を展示しているおにの間の設備に関しては、施設の目的である「おにの資料」の展示を効果的なものにしていくため、費用対効果も勘案しながら対応策を検討していく必要がある。 なお、平成28年度については、支出が収入を上回っていることから、今後、更なる経営の効率化を検討する必要がある。	A